

シンポジウム 1・2・3

Annex Hall 1・Annex Hall 2

シンポジウム 1

第 2 日目 2026 年 1 月 31 日(土) 09:55～ 11:55 "Annex Hall 1"

肥満症対策の実際

本シンポジウムでは、インクレチン関連薬の登場により変化した肥満症治療の実際を、医師・管理栄養士・理学療法士といった多職種の立場から議論し、薬物療法と栄養・運動療法を統合した実践的アプローチを提示する。

座長 鹿児島大学 糖尿病・内分泌内科学 森野勝太郎
千葉大学医学部附属病院 臨床栄養部副部長 兼 栄養管理室長 野本 尚子

基調講演

関西電力病院 総長 関西電力医学研究所 所長 清野 裕

S1-2 GLP-1受容体作動薬と食行動

岐阜大学大学院医学系研究科 糖尿病・内分泌代謝内科学 / 膠原病・免疫内科学 窪田 創大

S1-3 肥満症の運動療法

四條畷学園大学 リハビリテーション学部 本田 寛人

S1-4 肥満症栄養管理の実際

滋賀医科大学附属病院 栄養治療部 栗原 美香

S1-5 肥満症患者の食行動と心理社会的背景との関係

東邦大学医療センター佐倉病院 メンタルヘルスクリニック 林 果林

シンポジウム 2

第 2 日目 2026 年 1 月 31 日(土) 09:55～ 11:55 "Annex Hall 2"

シン・リハビリテーション 栄養 2.0

近年確立されたリハビリテーション栄養のコンセプトを再評価し、その到達点と課題を多職種で議論するシンポジウムである。リハ・栄養・口腔の三位一体の取り組みは国策として位置づけられた一方、臨床現場では十分に実践されていない現状がある。本企画ではエビデンスと実装上の障壁を整理し、「リハ栄養 2.0」として今後の展開と具体的な対策を探る。

座長 医療法人ちゅうざん会ちゅうざん病院 リハビリテーション科 吉田 貞夫
社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 臨床栄養課 小蔵 要司

S2-1 リハビリテーション栄養が目指す包括的かつ個別的なアプローチ

宮城厚生協会 坂総合病院 リハビリテーション科 藤原 大

S2-2

熊本リハビリテーション病院 栄養管理部栄養管理科 嶋津さゆり

S2-3 高齢患者におけるリハ栄養診断・ゴール設定

JA愛知厚生連 足助病院 栄養管理室 川瀬 文哉

S2-4 リハ栄養ケアプロセスにおけるリハ栄養アセスメントー臨床推論による最適支援を目指して

社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院 臨床栄養課 小蔵 要司

シンポジウム 3・4

Annex Hall 1・Annex Hall 2

シンポジウム 3

第2日目 2026年1月31日(土) 14:00～15:50 "Annex Hall 1"

がん患者の在宅医療における栄養支援の実際

外来化学療法の普及に伴い、在宅で治療を継続するがん患者が増えている。そこで本シンポジウムでは様々ながんステージにおける在宅医療と食事・栄養療法の現状と課題について取り上げる。

座長

盛岡市立病院

加藤 章信

愛媛大学医学部附属病院 栄養部

利光久美子

S3-1 SWGs(Sustainable Well-being Goals) 成功のKeyはすぐそこに

岡山済生会総合病院

犬飼 道雄

S3-2 がん悪液質に対して食欲に特化した栄養支援の現状と当院の工夫

悦伝会目白第二病院 外科

水野 英彰

S3-3 在宅がん患者に寄り添う食支援 ～家族を含めた支援のありかた～

医療法人溪仁会手稲溪仁会病院 栄養部

田中 智美

S3-4 特定機能病院における在宅療養のがん患者を支える栄養サポート その2

弘前大学医学部附属病院 栄養管理部

三上 恵理

シンポジウム 4

第2日目 2026年1月31日(土) 14:00～15:50 "Annex Hall 2"

摂食制御研究の最前線

本シンポジウムでは、中枢神経・末梢シグナル・環境要因が織りなす摂食制御メカニズムについて、基礎から臨床まで最新の知見を俯瞰する。脳内報酬系やホルモンシグナル、食行動・嗜好形成など多角的な視点から議論し、肥満・生活習慣病対策や行動変容支援への応用、今後の研究展望を示すことを目的とする。

座長

福井大学 学術研究院 医学系部門 内分泌・代謝学分野

原田 範雄

京都府立大学 大学院生命環境科学研究科 動物機能学

岩崎 有作

S4-1

名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学

田中 智洋

S4-2 GLP-1による過食抑制の神経基盤と実臨床における治療効果

名古屋大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科

杉山摩利子

S4-3 インクレチンによる摂食制御機構の理解: 新規インクレチン受容体作動薬を用いた検討

京都大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌・栄養内科学

瀬野 陽平

S4-4 GLP-1の生理的 vs. 薬理的な摂食抑制作用の比較

京都府立大学大学院 生命環境科学研究科

北野 里佳

シンポジウム 5・6

Annex Hall 1・Annex Hall 2

シンポジウム 5

第 2 日目 2026 年 1 月 31 日(土) 16:00～ 17:50 "Annex Hall 1"

周術期の栄養支援の実際

本シンポジウムでは、周術期栄養管理すなわち重症患者における術前から術中・術後までの途切れのない栄養管理を、症例を中心に具体的に、経口・経腸栄養、静脈栄養の適切な位置づけやサルコペニア予防のための戦略を議論する。

座長	済生会今治第二病院 内科	松浦 文三
	医療法人社団藤花会 江別谷藤病院 脳神経外科	黒川 泰任
S5-1 脳神経外科における周術期の栄養・電解質管理	大阪医科薬科大学 脳神経外科学教室	鰐淵 昌彦
S5-2 重症頭部外傷後の電解質・栄養管理について	防衛医科大学校 脳神経外科	豊岡 輝繁
S5-3 Sarcopenic Obesity: 低エネルギー外傷受傷者における栄養学的代価	ハンガリー セゲド大学 外傷整形外科	黒川 昂之
S5-4 当院の周術期栄養支援の変遷	京都市立病院 栄養科	植木 明

シンポジウム 6

第 2 日目 2026 年 1 月 31 日(土) 16:00～ 17:00 "Annex Hall 2"

災害時の栄養サポート

本シンポジウムでは、糖尿病医療支援チームや栄養士会、大学病院で災害時栄養支援に取り組む演者を迎え、被災地での実際の活動を共有する。発災直後の急性期から避難所・在宅・慢性期まで、限られた物資下での食事提供、慢性疾患や高齢者への対応、平時からの備えと人材育成を議論し、地域で機能する災害時栄養サポート体制を考える。

座長	佐賀大学医学部内科学講座 肝臓・糖尿病・内分泌内科	安西 慶三
	岐阜大学医学部附属病院 栄養管理室	西村佳代子
S6-1 災害時糖尿病医療支援チーム(DiaMAT) の活動と役割	佐賀大学医学部内科学講座 栄養管理部	安西 慶三
S6-2 令和 6 年能登半島地震での経験と課題	金沢大学附属病院 栄養診療部	徳丸 季聡
S6-3 災害時の栄養サポート ～ JDA-DAT の活動と役割～	三重大学医学部附属病院	小出 知史

シンポジウム 7・8・9

Annex Hall 1・Annex Hall 2

シンポジウム 7

第2日目 2026年1月31日(土) 17:00～17:50 "Annex Hall 2"

専門病態栄養看護師 さらなる活躍への期待

専門病態栄養看護師の活動状況を共有し、今後のさらなる活躍への課題と展望について討議いただく。

座長	脳卒中と栄養ケア・在宅支援 Nurture	内橋 恵
武庫川女子大学 食物栄養科学部 食物栄養学科 臨床栄養学研究室		山本 育子

S7-1

HAND in HAND 矢吹 浩子

S7-2 専門病態栄養看護師 さらなる活躍への期待 ～管理栄養士の立場から～

新潟県立大学 人間生活学部健康栄養学科 村山 稔子

シンポジウム 8

第3日目 2026年2月1日(日) 09:00～11:00 "Annex Hall 1"

プレジジョン栄養学の現在と展望

現在、一人ひとりの患者さんにあった適切な治療を行う医療＝プレジジョン・メディシンが広がっている。本シンポジウムでは栄養領域におけるプレジジョン・メディシンを取り上げ、最近の動向と今後の展望をディスカッションいただく。

座長	東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科	山内 敏正
徳島大学大学院医歯薬学研究部 臨床食管理学分野		竹谷 豊

S8-1 臨床現場でのエネルギー必要量の求め方の現在と展望

東北大学大学院医工学研究科スポーツ健康科学分野 / 東北大学大学院医学系研究科運動学分野 山田 陽介

S8-2 食事をはかること＝プレジジョン栄養学の土台：

栄養バイオマーカーと比較した自己申告型食事調査法の精度

信州大学医学部附属病院 臨床栄養部 高岡 友哉

S8-3 デジタルを活用した食事療法 ～リアルワールドで広がる個別化栄養の可能性～

株式会社おいしい健康 プロダクト開発チーム 小田部あかり

S8-4 プレジジョン栄養学—データ駆動型個別化栄養学—と時間栄養学の実践プラットフォームの構築

名古屋文理大学 健康生活学部 小田 裕昭

シンポジウム 9

第3日目 2026年2月1日(日) 09:00～11:00 "Annex Hall 2"

肝臓における3大栄養素の代謝変化

本シンポジウムでは、肝臓における糖・脂質・たんぱく質代謝のクロストークと、その破綻がMAFLD/MASH、糖尿病など代謝疾患に及ぼす影響を基礎・臨床の両面から俯瞰する。栄養療法や薬物療法を含む包括的アプローチの最前線を共有し、肝疾患と全身代謝管理を統合した新たな栄養戦略を議論する。

座長	藤田医科大学医学部 内分泌・代謝・糖尿病内科学	清野 祐介
奈良女子大学 研究院 生活環境科学系 食物栄養学領域 臨床栄養学分野		小栗 靖生

S9-1 炭水化物の代謝における肝臓の役割

藤田医科大学医学部 臨床栄養学講座 飯塚 勝美

S9-2 アミノ酸代謝とグルカゴン関連ペプチド

名古屋大学環境医学研究所 内分泌代謝分野 林 良敬

S9-3 脂肪性肝炎の病態進展に関わる脂質代謝変化と栄養学的標的

東京農業大学 応用生物科学部 食品安全健康学科 煙山 紀子

S9-4 MASLD/MASH患者に対する栄養管理

関西電力病院 疾患栄養治療センター 茂山 翔太

シンポジウム 10・11

Annex Hall 1・Annex Hall 2

シンポジウム 10

第 3 日目 2026 年 2 月 1 日(日) 13:00～14:45 "Annex Hall 1"

透析患者の食事、何を見直すか？

透析患者の高齢化やフレイルが問題と意識され、「制限一辺倒」から栄養状態と QOL を守る食事療法を意識した工夫が問われるようになっていく。本シンポジウムでは、エネルギー・たんぱく質・カリウム・リン・塩分など何をどこまで見直すべきかを整理し、現実的に続けられる工夫と実際を共有し、今後の透析栄養管理の方向性を議論する。

座長

近畿大学奈良病院 内分泌・代謝・糖尿病内科
おさふねクリニック森 克仁
市川 和子

S10-1 高齢透析患者の栄養管理～食事摂取基準とのギャップ～

医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院 栄養管理室

長谷川由起

S10-2 透析患者の食事について改めて考える

京都大学医学部附属病院 疾患栄養治療部

浅井加奈枝

S10-3 「食べる力と元気を守る食支援」～早期介入の必要性～

医療法人社団 にれの杜クリニック 栄養科

奥田 絵美

S10-4 制限から個別最適化へのシフト～透析患者の栄養治療を支える～

北里大学病院 栄養部

吉田 朋子

シンポジウム 11

第 3 日目 2026 年 2 月 1 日(日) 13:00～14:45 "Annex Hall 2"

腸内細菌と病態栄養

本シンポジウムでは、腸内細菌叢と食事の関係に焦点を当て、日本人で見られた腸内細菌叢の特徴、食物繊維など食事成分と腸内細菌の相互作用、腸内細菌の検査・分析サービスの現状、若い低体重女性で見られた食事の多様性と腸内細菌叢の多様性の変化について議論する。このセッションを通じて、今後日常的に行われるであろう腸内細菌叢検査の結果をどのように栄養指導並びに栄養介入に結びつけるか考える。

座長

藤田医科大学医学部 臨床栄養学講座
順天堂大学 医療科学部・薬学部・健康データサイエンス学部飯塚 勝美
高橋 徳江

S11-1 日本人の腸内環境の理解と健康社会実現に向けた新展開

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所

國澤 純

S11-2 発酵性食物繊維の摂取が日本人の腸内細菌叢に及ぼす影響

大妻女子大学 家政学部食物学科

青江誠一郎

S11-3 腸内細菌叢の検査が医療現場で活用される未来へ

シンバイオシスソリューションズ株式会社

畑山 耕太

S11-4 若年低体重女性と正常体重女性における食事パターンと腸内細菌叢の比較

藤田医科大学 医学部臨床栄養学講座

和田理紗子